

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2000年(平成12年)4月25日 No. 1157

目次

ロシア石油業界の現状②	坂口 泉 1
キーパーソン	13
C I S 諸国通貨の最新為替レート	14

ロシア石油業界の現状②

—1999年の動きを中心に—

はじめに 前回に引き続き、今回はロシア石油業界の現状というレポートの後半部分をご紹介します。

5. PS関連プロジェクトの進捗状況

深刻な投資不足に悩むロシア石油業界にとって、巨額の外資の誘致が見込めるPS制度下の油田開発は非常に重要な意味をもつ。PS制度下での油田開発が活性化すれば、現在の生産量を維持し、さらには生産量を伸ばすことも不可能ではないであろう(PS制度についての詳細は、当会『ロシア東欧調査月報』(1999.7)の「PS法制の整備状況とロシアの石油開発」(中居孝文研究員)を参照)。

ここでは、ロシアにとって極めて重要な意味をもつPS関連プロジェクトの現時点での進捗状況をごく簡単に紹介する。

(1) PS法制定(1996年1月)以前に契約が締結された3件

サハリンI、サハリンII、ハリヤガ・プロジェクトの3件。サハリンI、IIは、1996年6月に契約が発効している。ハリヤガ鉱床(ネネツ自治管区のティマン・ペチョラ地区)開発プロジェクトは、契約が締結されたのは1995年12月であったが、輸送経路が明確でなかったことなどもあり、発効したのは、1999年2月であった。この3つのプロジェクトだけで、これまで、約15億ドルの投資が行われたといわれている。サハリンIでの商業生産の開始時期は2002年以降と見込まれているが、サハリンIIとハリヤガでは、すでに、商業生産が開始されている。その生産の状況等は以下のとおりである。